

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：34517
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2015～2019
 課題番号：15K04097
 研究課題名(和文) 発達障害におけるコミュニケーションの文脈に視点をおいた音楽療法プログラムの構造化

研究課題名(英文) Development of a Context-Centered Music Therapy Program to Treat Communication and social deficits in ASD

研究代表者
 松本 佳久子 (Matsumoto, Kakuko)
 武庫川女子大学・音楽学部・准教授

研究者番号：90550765

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、発達障害における社会性の障害に着目し、前言語(Pre-Verbal)から言語的(Verbal)段階に至るコミュニケーションを促進する音楽療法プログラムを構築した。これら音楽療法プログラムを臨床において、意味の生成と変容をもたらす時間・空間的コンテクストに着目し、コミュニケーションにおける質的变化を可視化する評価方法を検討した。

具体的には、沈黙や「間(ま)」などの前言語的感情表現を含んだコミュニケーション行動をコード化し、計量テキスト分析により、時間的コンテクストを示した。これらの計量的分析とともに、関与観察によるナラティブ分析とを統合する質的・定量的評価方法を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、コミュニケーションにおける前言語的感情表出を独自にコード化し、計量テキスト分析を行った。また、ELANによる行動分析を通じて感情表出行動の時間的コンテクストを示した。これらの計量的分析と関与観察によるナラティブ分析とを統合した質的・定量的評価方法を検討した。このことにより、相互作用による関係の変容過程を可視化し、文脈に着目したコミュニケーション促進プログラムの構築を可能にした。これら音楽療法プログラムは、発達障害の根本的課題に焦点化したアプローチとして、発達障害児者の中でも、特に矯正教育において多く適用するに至った。

研究成果の概要(英文)：his study focused on social disorders in developmental disorders and developed a music therapy program that promotes communication from the preverbal (Pre-Verbal) to the verbal (Verbal) stage. We focused on the temporal and spatial context that leads to the generation and modification of meaning in the clinical practice of these music therapy programs, and examined an evaluation method that visualizes qualitative changes in communication. Specifically, we coded communication behaviors including preverbal emotional expressions such as silence and "Ma (room)" and showed temporal contexts by quantitative text analysis. Together with these quantitative analyses, a qualitative and quantitative evaluation method integrating narrative analysis by participation observation was examined.

研究分野：音楽療法

キーワード：音楽療法 発達障害 コミュニケーション 矯正教育 文脈 意味論的分析 計量テキスト分析

1. 研究開始当初の背景

発達障害の中核は、言語における文脈、社会的認知や理解の障害とされ(杉山 2007)、「心の理論」における障害説など(Baron-Cohen 1985)諸説挙げられている。しかし、発達障害の全容は明らかにされておらず、DSM-5(2011)からは自閉症スペクトラムとして一層幅広い様態として捉えられるようになった。思春期・青年期においては不登校・ひきこもり・非行といった不適応から、精神疾患や犯罪など重篤な二次的障害に至るなど複雑な様相を呈することもある。近年、矯正施設において発達障害への対応が迫られるなど、司法の場においても大きな課題となっている(松浦 2012)。このように、教育・医療・福祉・司法など幅広い領域にわたり発達障害におけるニーズに対応するには、早期発見・支援とともに、アイデンティティ確立へと向かう思春期・青年期に至る継続的な支援が重要である。主な支援方法として、認知行動療法やソーシャルスキルトレーニングといった心理療法のほか、TEACCH プログラムなどの視覚構造化による支援が適用されている。しかし、前言語期の乳幼児と母親にみられる「情動調律(Stern et al.1985)」の行動において、表情や声の抑揚・間・リズムカルな動きや揺れなどの共感的な情緒のやりとりが、愛着形成に根ざした前言語的コミュニケーションにおいて重要な基盤になると考えられ、この点においては多様な感覚を用いて情緒的経験の共有を可能にする音楽療法の有効性が期待できる。本研究は、発達障害における前言語的・言語的コミュニケーションを促進する音楽療法プログラムの構造化を目指すものである。

2. 研究の目的

本研究は、発達障害における社会性の障害に着目し、前言語的(Pre-Verbal)から言語的(Verbal)段階に至るコミュニケーションを促進する音楽療法プログラムの構築を目指す。そのために、臨床において、意味の生成と変容をもたらす時間的・空間的コンテクストに着目し、コミュニケーションにおける質的变化の可視化を目指す。具体的には、沈黙や「間(ま)」などの前言語的感情表出行動をコード化し、カテゴライズを作成し、計量テキスト分析ソフト KHcoder による共起ネットワーク分析により空間的文脈を示す。また、ELAN による行動分析を通じて感情表出行動の時間的コンテクストを示す。これらの計量的分析と関与観察によるナラティブ分析とを統合する質的・定量的評価方法を検討した。

3. 研究の方法

本研究は、「研究 1: 前言語的・言語的(語り)の情動表出データの収集とカテゴライズ」、「研究 2: 臨床データのデータベース化」、「研究 3: 時間・空間的文脈に着目した音楽療法プログラムの検討」、「研究 4: 発達障害児への前言語的コミュニケーション促進プログラム構築と普及」の4つに分けて行なった。

(1)研究 1では、定型発達児者ならびに、大学付属機関(保育園・幼稚園)の児童と保護者を対象に自由交流の場や音楽療法の場における映像と音声を収集し、感情表出やコミュニケーション行動の観察と分析を行った。

(2)研究 2では、下記の場面においてデータを抽出し、カテゴライズした。

- ・発達障害児の音楽療法場面の交流と自由場面
- ・矯正施設内の発達障害少年の音楽ナラティブ

(3)研究 3では、時間・空間的文脈に着目した音楽療法のプログラムを検討した。

(4)研究 4では、これら音楽療法の現場において適用し、効果測定を行なった。

4. 研究成果

(1)臨床データの蓄積とデータベース化:発達障害及びその疑いのある障害児者への音楽療法における関与観察を通じて前言語的・言語的臨床データを蓄積し、既存の心理尺度に基づきカテゴライズを行った。

(2)臨床データの質的・量的分析:大学付属機関である音楽療法研究室並びに放課後等デイサービス、行刑施設内において、発達障害及びその疑いのある障害児者への音楽療法プログラムを導入し、これら臨床の場における前言語的・言語的データからテキストデータを抽出した。さらに(1)におけるカテゴライズに沿ってコーディングを行なった。なお、コーディングに際しては、言語のみならず非言語的要素である「沈黙」「オノマトペ」「身振り」などの情動表出にも着目し、テキストデータに含めた。

このことは、臨床の場における関係性や文脈の変化に着目する本研究の分析部分において、非常に重要な成果の一つとなった。これらの臨床データを計量テキスト分析(対応分析並びに共起ネットワーク)を通じて検討し、また集団療法に適用可能な既存の心理的評価尺度と併用することにより、臨床的变化の可視化を図った。また量的分析と併せて、映像記録の逐語録や関与観察から得られたデータの記述的記録から、意味論的分析を行った。

(3)時間・空間的文脈に着目した音楽療法プログラムの検討と公共化:上述したデータの蓄積とカテゴライズ、並びに時間・空間的文脈に着目した分析結果に基づき、発達障害及びその疑いのある対象者に対して、音楽療法プログラム「大切な音楽の語り(Musical Narrative)」を導入し、その成果を第16回日本音楽療法学会(仙台)のほか、大阪矯正実務研究会など関連学会にお

いて発表した。

(4)発達段階に即した音楽療法プログラムの構築：発達障害児者への音楽療法プログラム適用を行なった。具体的には、本学附属機関の児童並びに、行刑施設の発達障害や精神障害者等により処遇に困難をきたしている在在者を対象に音楽ナラティブを導入した。また、少年院の支援教育かてい(N3)において、音楽プログラムを導入した。

・音楽を媒介とする語りを通じた意味・関係の生成と変容のアセスメント：発達段階に応じて導入し、音楽療法プログラムの導入におけるアセスメント並びに行動観察・評価を行った。このほか、音楽を媒介とする語りを通じた意味生成とそれらの変容のプロセスを評価するために、軽量テキスト分析と意味論的分析とを併用し、検討した。

(4)本研究の意義

研究成果の公表と普及：本研究の成果について、国際学会としては、世界音楽療法学会を始め、第10回対話的自己国際学会や、国内では日本心理臨床学会、日本犯罪心理学会、日本芸術療法学会において発表した。このほか、シカゴ学派ナラティブアプローチの可能性の探索をテーマとした国際シンポジウムにおいて、本研究のプログラムにおける語りのデータ分析の目的と方法、また現場への適用について報告した。

前言語的情動表出(沈黙・間・身振り・表情などを含む)を抽出し、カテゴライズすることができた。さらに、矯正施設内の発達障害を抱える少年受刑者や成年受刑者グループの全10回にわたる音楽ナラティブ(“大切な音楽”の聴取と語り)による音楽療法を実践し、臨床の場における音楽ナラティブの音声映像を記録した。その際に、沈黙・間・身振り・表情等の情動表出と語りからテキストを抽出し、カテゴライズすることができた。

また、関係機関との連携：少年鑑別所への職員研修のほか、家庭裁判所調査官研修会、外部大学の臨床心理学専攻大学院生に対するゲストスピーカーとして登壇し、音楽療法導入施設における成果報告を行うなど、広く世間に周知するに至った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松本佳久子	4. 巻 18-1
2. 論文標題 司法領域の音楽療法における他職種との連携	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本音楽療法学会誌	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto, K., Takehara, N., Ichinose, T., Igari, Y.	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Meaning construction by Musical Narrative-Group therapy approach for juvenile criminals-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Music Therapy Today	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 松本佳久子
2. 発表標題 「大切な音楽」を媒介とした語りと沈黙－受刑者への音楽ナラティブ・アプローチ
3. 学会等名 第18回日本音楽療法学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本佳久子, 鍋島宏之, 宮本悠起子
2. 発表標題 「アート体験」を通じた処遇困難受刑者への適応援助－集団音楽療法を用いた統合失調症受刑者の事例における臨床的变化－
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会(神戸国際会議場 他)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kakuko Matsumoto
2. 発表標題 Meaning construction by musical narrative for criminals
3. 学会等名 The 10th International Conference on the Dialogical Self(ミンホ大学,ポルトガル)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鍋島宏之、篠田美香、松本佳久子
2. 発表標題 処遇困難受刑者への集団芸術療法「アート体験」導入の検討ー薬物 事犯者の臨床的变化を通してー
3. 学会等名 第50回日本芸術療法学 会(京都文教大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kakuko Matsumoto,Masayoshi Morioka
2. 発表標題 自己の回復のための臨床ナラティブ・アプローチ
3. 学会等名 国際シンポジウム「社会科学とフィールドワ ークにおける挑戦、シカゴ学派以降のナラティブアプローチと協同的ダイナミクス」(トゥール大学,フランス)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本佳久子
2. 発表標題 How theory emerges during clinical settings.
3. 学会等名 第15回世界音楽療法大会 ラウンドテーブルKnowing/Communicating The Clinical Process In Music Therapy Practice 2 Illustrative Approaches (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本佳久子、竹原直美、一ノ瀬智子、猪狩裕史
2. 発表標題 Meaning Construction by Musical Narrative : Group Therapy Approach for Juvenile Criminals
3. 学会等名 第15回世界音楽療法大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本佳久子、鍋島宏之、宮本悠起子
2. 発表標題 処遇困難受刑者への音楽療法導入 による探索的検討
3. 学会等名 第55回日本犯罪心理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Morioka, M., Matsumoto, K., Hirose, K., Kuroha, K.
2. 発表標題 The meaning construction of Musical Narrative-Group counseling for juvenile delinquents-(Topic Session "WHEN THE LIVING MOMENT IS CREATED IN THE THERAPEUTIC DIALOGUE")
3. 学会等名 The 9th International Conference on the Dialogical Self (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井上慎、小西好彦、松本佳久子
2. 発表標題 若年受刑者に対する音楽療法の効果検証
3. 学会等名 大阪矯正実務研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本佳久子、井上慎、小西好彦
2. 発表標題 少年受刑者グループにおける音楽療法の活用-語りの変化に着目して-
3. 学会等名 第54回日本犯罪心理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本佳久子・竹原直美
2. 発表標題 “大切な音楽”によって示されるものと語られるもの - 少年受刑者へのグループカウンセリングにおける語りのコンテキストの分析
3. 学会等名 日本芸術療法学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 松本佳久子・小西好彦・井上慎
2. 発表標題 少年グループにおける音楽療法の活用-語りの変化に着目して-
3. 学会等名 日本犯罪心理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masayoshi morioka, Kakuko Matsumoto, Koichi Hirose
2. 発表標題 When the living moment is created in the therapeutic dialogue
3. 学会等名 9th International Conference on the Dialogical Self (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Valsiner, J., Sato, T., Yasuda, Y., Matsumoto, K., et.al.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 INFORMATION AGE PUBLISHING	5. 総ページ数 220(87-103)
3. 書名 Making of The Future The Trajectory Equifinality Approach in Cultural Psychology	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森岡 正芳 (Morioka Masyoshi) (60166387)	立命館大学・総合心理学部・教授 (34315)	
研究分担者	猪狩 裕史 (Igaru Yuji) (70751569)	名古屋音楽大学・音楽学部・准教授 (33922)	
研究分担者	矢野 環 (Yano Tmaki) (10111410)	同志社大学・文化情報学部・教授 (34310)	
研究分担者	一ノ瀬 智子 (Ichinose Tomoko) (80388800)	武庫川女子大学・音楽学部・教授 (34517)	
研究分担者	竹原 直美 (Takehara Naomi) (90707324)	武庫川女子大学・音楽学部・助教 (34517)	